

秩父市が「定住自立圏」に選ばれる

秩父市は、周辺の自治体と協力して、「住んでよし、訪れてよし」のまちを目指していくため、「定住自立圏」構想に応募し、総務省から先行実施団体として、全国20市の中心市の一つとして選定されました。

定住自立圏とは

少子・高齢化、人口減少、厳しい財政事情などの現状をしっかりと見据えたうえで、安心して暮らせる地域を創っていくこととするものです。

具体的には、互いに協定を結び、左のイメージ図のように、中心市と周辺自治体間での病院や文化施設などの共同利用の推進、あるいは、農産物のブランド化や流通制度の改革、さらには、コミュニティバスの運行エリア拡大などを推進していく構想です。



取り組みの具体的な内容 (予定)

● 地域医療の強化
民間医療機関 (秩父都市医師会)

など」と公立病院の役割分担を明確にするとともに、人材を育成し、圏域自治体が協力して医師の確保に努めます。

● 伝統芸術の文化交流

伝統芸能等の後継者の育成に努め、圏域住民が伝統文化を未来に伝えるための交流拠点を創ります。

● 地産地消による農産物の増産と販売の促進

遊休農地解消のために農業の担い手を育成し、新たな特産品の開発を進め、大消費地である東京、県南都市部で販売できるよう流通の仕組みを整えます。

● 観光連携

地域資源を生かした新たな観光ルートや農山村体験、自然体験観光などのコースを圏域一体でPRして、誘客促進に努めます。

● 都市住民との交流促進

都市住民が圏域内の空き家、コテージなどを別荘として活用し、週末を過ごしていただく「二地域(週末)居住」の住民を増やします。

● 公共交通空白地帯の解消

公共交通網の整備が遅れている周辺部の公共交通空白地帯の解消と道路整備を行い、中心市街地へのアクセス向上を図ります。これらの具体的な取り組みを実現していくため、周辺自治体と平成21年度内の協定締結を目指します。

● 関心ある者と創造課
☎ 22-128233

埼玉県初

バイオマスタウンへ!!

国の推薦で構想策定

このたび、国がバイオマス・ニッポン総合戦略で定める「バイオマスタウン」に「ぜひ、秩父市を!」という農林水産省や経済産業省の推薦により、「バイオマスタウン構想」を策定することになりました。

バイオマスタウンとは?

地域の家畜排せつ物、食物残渣、間伐材、庭木の剪定枝、落ち葉、生ゴミなどのバイオマス資源を、安定的かつ適正に、有機肥料や電気、熱などのエネルギーで利用するなど、資源を循環利用する地域のことです。埼玉県内では初めてとなります。

イメージは下図のとおりです。

バイオマスタウンのメリット?

- 1 新たな産業・雇用の創出
例えば、生ゴミなどを使った発電、バイオ燃料やたい肥の生産を通じて、仕事が生まれます。
- 2 地球温暖化の防止に貢献
バイオマスは、植物が育つときに吸収した二酸化炭素からできた資源なので、大気中の二酸化炭素を増やさないのが特徴です。太陽が存在する限り、再生可能な有機資源であり、地域で生産し消費することで、温暖化防止に効果的です。
- 3 「使い捨て社会」から「資源リサイクル社会」へ
今まで使われなかったものや捨てられていたものを有効活用でき、資源のリサイクルが進み、循環型社会の構築に寄与します。

4 施設の整備などに国の支援(補助)を受けることが可能

バイオマスタウン構想に位置づけられた事業は、市だけでなく、民間事業者の方も事業主体になることができます。

バイオマスタウン構想を推進

日ごろ、市民の皆さんがリサイクルの推進やバイオマスの利用にご理解をいただいていることが認められ、国の機関などから「バイオマス利用のことは秩父市で!」という推薦を受けて、バイオマスタウン構想を進めることとなりました。これからは「バイオマスタウン」として、市民の皆さんと一緒に、地球温暖化防止や循環型社会の構築を目指し、事業を推進してまいりますのでご理解と協力をお願いします。

☎ 22-12378

関係エネルギー・環境対策課

